

校長室の窓から No.54

★★★★☆五城目町立五城目小学校 校長室だより 平成 29年 9月 26日 (火)

最上級生の自覚, 思いやる心, 頼もしさ実感 ～6年修学旅行引率を終えて～

去る9月13・14日、6年生50名と引率者6名、関係業者等とともに仙台市内及び名取市閑上地区へと修学旅行に出かけてまいりました。学校での出発式は小雨がぱらつきましたが、奥羽山脈を抜けてからは青空が広がって絶好の修学旅行日和となりました。

6年生が掲げたスローガンは「No. 1～一生で一度、一人一人、一分一秒を大切に～」でした。グループ別学習でも全員で見学・観戦する学習や活動においても最上級生の自覚や男女の仲良く話をしながら落ち着いて楽しんで行動する姿がとても印象に残るとともに、五小っ子リーダーとしての頼もしさを実感する場面を数多く見る事ができました。

特に感心したのは、1日目のグループ別学習で地下鉄南北線に乗り込んで目的地に向かっている時のことでした。車内が混み始めたある駅から70歳前後と思われる高齢者何名かが乗り込んできた様子を見るなり、6年生はお互いすぐさま目で合図しながら席を譲った場面でした。同じような場面は東西線でもあったのです。これには脱帽でした。本校では学力向上とともに、その前提条件となる心の育成、とりわけ「思いやる心」を大事にした教育を進めているところですが、修学旅行中の6年生が車内の状況をとっさに判断し、相手を思いやって席を譲った行動には本当に感心させられました。



(手前) 震災6年半後のまちの様子について真剣に聞き入る6年1組
(奥) 震災慰霊碑(塔)の前で大津波の説明を聞く6年2組

2日目には東日本大震災で甚大な被害に遭われた名取市閑上(ゆりあげ)地区を見学しました。地区に住んでいた自宅をすべて失ったボランティアガイドさんから直接現地を案内してもらいました。当時、一度避難してから着替えの衣類や通帳などを取るために自宅に戻った多くの大人が亡くなってしまったこと、8m29cmの真っ黒な大津波があつたという間に街を飲み込んでいった話など、災害の恐ろしさを直に聞き、防災意識をしっかりとつことを学びました。

ベニーランドやプロ野球観戦、仙台うみの杜水族館など、全てにおいて公衆道徳・マナーをよくわきまえて行動した6年生の頼もしさを実感した2日間でした。今後も最上級生として、学校生活はもとよりスポーツ少年団や文化活動等の団体活動の中でも、下級生に対して範となる姿を見せてくれるでしょう。

かかわる・つながる・やり抜く・協働で実践する～五小教育から～

9/22

算数授業
研究会

→3年
2組

楽しく、真
剣に学ぶ
五小っ子

↓5年
2組



↑ 9/19 4年
広青苑訪問
みんなが笑顔
になりました。

← 9/11 全校

10/3の校内マラ
ソン大会に向け、昼
休みに練習する五
小っ子が増加中

○創 立 (143周年)

明治7年5月7日

○児童数 278名

(H29.9.1現在)

○教職員数 45名

文責:校長 戸部裕隆



※スマートフォン
からもご覧に
なることが
できます。